

第73回愛知県公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時

令和8年7月29日（水）午後2時から午後3時30まで

2 場 所

愛知県庁本庁舎 6階 正庁

3 出席者

委員 5人

説明のために出席した者 16人

4 傍聴者

0名

5 議 題

- (1) 2025年度業務実績について（進捗確認）
- (2) 役員報酬規程の一部改正について
- (3) 愛知県立高等専門学校の設置について

6 議事概要

【2025年度業務実績について】

- 愛知県公立大学法人の2025年度の業務実績について、法人からヒアリングを行った。

【役員報酬規程の一部改正について】

- 「意見なし」とした。

【愛知県立高等専門学校の設置について】

- 愛知県立高等専門学校の設置について、法人から説明を受けた。

7 会議録署名人

河辺委員

山本委員

【質疑】

- (1) 2025年度業務実績について（進捗確認）
- (2) 第三期中期目標期間における業務実績について

○ 委員

資料1 項番24で、優秀な学部生がいたため遅れていますというお話に対して、そうならないように改善しますというようなご説明をいただいたんですけども、そうすると優秀な学部生の芽を摘むようなことにはならないんでしょうか。

○ 大学法人

もちろん芽を摘まないようにしていくんですが、掲げた目標が、博士前期以上、つまり大学院以上って書いてあって、それには相当する数字にはなっていないという点でいうと1件です。大学としては、その学部生で優秀な学生がいたんだからいいかもしれませんが。大学院生が2件出すことは、できていないということを正直に申し上げたということでもあります。

○ 委員

資料1 項番15の教員研究費インセンティブ制度を導入とは、ざっくりどんな制度なんでしょう。お金を配分するとかそういうことですか。

○ 大学法人

教員には、学内で配分する教員研究費と、外部からとってきたお金によって大学に入るお金があります。外部からとってきている人には、通常配分される教員研究費に、外部からとってきた研究課題の大きさ、規模、金額に応じた形でさらに上乗せして配分をするというような形でインセンティブがあります。ですので人によって、例えば一人20万円、等しく教員研究費を受け取るときに、外部から研究費をとってきた教員に対しては、その上にプラス5万円とか10万円など、それに応じた形のパーセンテージをかけて追加的に配分し、これからももっと研究を発展させてくださいというようなインセンティブです。

○ 委員

外部からの受託金額の何パーセントかを還元する仕組みで、効果があると考えていますか？

○ 大学法人

外部からの科研費は間接経費という形で組織に入ってきます。これがどのような効果をもたらしているかというのは、いま即断することができないかなという風に思います。確かに件数は上がっているのですが、それがインセンティブが功を奏したと判断できる因果関係がそれなりに説明できないといけないかなと。例えば、件数が同じだったけど中身が異なっていたとか、これから実績を重ねてそういう分析をやっていくというところです。

○ 委員

項番31の文化財保存修復研究所の修復・模写事業が増えていますが、これは芸術大学の技術が優れているから、他との競争に勝っているという風に考えて宜しいのでしょうか。

○ 大学法人

ご存じの通り、愛知県は京都、奈良よりお寺が多いです。修復が物凄く多い年があります。一年で直すわけではないものが多いので、ある年はまとまってお話がくるときもあるんですけど、研究員の数も限られるので、来たら全部受けられるわけではなく、待ってもらうこともあり、たまたま今年この数になってしまったということです。そうなってくると、目標設定をどうしたらよいかというのは議論になっているのですが、過少に、消極的に目標設定したわけではなくて、だいたいこれくらいをいくつ積み上げていけば研究として発展していくだろうという数値設定をしたんです。勝っているかと言えば、比較的安価にやっているし、カルテを付けて出すという大学方針のもとに、化学分析したものをお付けして返す、ただ綺麗になりましたよと返すだけじゃないんです。そういったところとかも評価され始めたのだと思います。

○ 委員

質と信頼が高いということで、こちらに集中してオファーが来るということは、いいことだと思います。目標設定に関してはお任せしたいと思います。

○ 委員

先ほどのインセンティブの話なんですけれども、ぜひ色々な方策を試していただいて、どんな効果があるかっていうレビューをやっていただきたいのと、色々な大学も試して失敗して、上手くいってっていうのをやっているのので、ぜひそういう情報収集をやっていただいた方がいいかなと思います。例えば科研費だと、まず申し込まないと話にならないっていうので、ある国立大では

申し込まないと給料を減らすとかやっているところもあります。採択になったものを皆で閲覧をしているところもあります。お金をもらった人にお金をあげるとするのは、意外とどこの大学もあんまりうまくいっていないというケースがあるんですね。例えばこの年齢だとCランク、この年齢だとBランクを狙うっていうやつを、Cランクから一個上げてBランクを狙うようにし、リスクをカバーしてあげる。そちらの方がインセンティブがあるという、そんな発想もあったりします。たぶん会社さんとかはそっちの方が多いかもしれないです。ぜひそういう情報収集をしてやっていただけたらいいかなと思います。

○ 大学法人

ありがとうございます。お金の配分に関する効果についてはきちんと検討したいと思います。今のお話くださった点に関しては、出さなければ話にならない。先生も、実態としてはご存じだと思うんですけども、絶対に落ちることを分かっている人、出す人もいます。我々は中身なんてくちやくちやくで、とにかく出せばいいということに意味があるという風には考えていませんので、きちんと出した、一生懸命申請書を作って出した、それでも不採択だったという場合には、学長のマネジメントで、学長特別研究費っていうので、一年間フォローする制度を設けています。科研で一人一人に結果が出ますよね。そういう結果と共に出してもらって、内部で審査をして、一年間だけは支援するから頑張ってくれっていう形で、フォローの部分は大事にしています。すると必ずしも出すっていう風には今の時点では言えないんですけども、継続してきちんと出すっていうところには繋がっているかなと思います。そこは大事にしていきたいなと思います。

○ 委員

温かさも大事にしていきたいと思います。

○ 委員

まず県立大学ですが、教教分離をいよいよ始められるのは喜ばしいことだと思います。特に県立大学のように多様な学部構成となっている場合には、教員がいわゆるたこつぼ化しがちですが、そうならないようにするためにも有意なことだと思います。ただ、すでに筑波とか早稲田はじめとして日本中で始まっていると同時に、それなりに成果を上げているところもあるが、あまり芳しくないというところもございます。今後、この教教分離をどういう風に実りあるものにするか、より教育研究活動を活発にしていけるか、そのための工

夫について考えていらっしゃる事などあれば、ぜひ教えていただきたいと思います。

○ 大学法人

ご質問ありがとうございます。河辺先生の仰るとおりで、教教分離というのは、大学に身を置く者にとっては周知の上で、率直なところ、ここが華々しく成功したという例もなかなか見当たらないのが実情です。まず昨年度全学でその説明をした後に、今年の5月に教員部分の組織をどういう風に検討していくかっていう検討部会を立ち上げまして、今は情報収集と、この夏に部会の教員には他大学の視察に行ってもらう予定にしているところです。仰るように、例えば、研究型にするのか、教育型とどのように対応させるのか、完全な分離なのか、混ぜるのか、コンビネーションが大学の数ほどあるのが教教分離の特徴だと思います。私たちの大学には、私たちの大学にしかない教育、研究の領域があります。そして、導入後、最初は学部学科のように全く一致させておいて、ソフトランディングを図るように、例えば2年後3年後にはこれを完全に分離しておくという例もあります。今はその情報を整理して、それを全学に対して共有して、そして夏の視察を踏まえて、検討段階で2030年度までに導入を完成するという形で、今は理解の時間、検討の時間も必要なので、そういうスパンで進めているところです。できれば我々の大学の特性を最大に生かして、一つのモデルになるような形にできるといいなと。モデルになるというのは真似をするという意味ではなく、これからおそらく試みられていくだろう公立大学の、自分たちの特性をどう生かすのかというモデルになるような作り方ができるといいなと思っております。

○ 委員

ありがとうございました。ぜひ、これまで県立大学が積み上げてきた実績が、さらに魅力を増していくような体制の導入に結び付けていただくようお願い申し上げます。

続いて、リカレント教育なのですが、現在ではリカレント以上に、リスクリングが注目を集めております。特に県立大学の学部構成で言いますと、例えば看護などはこのリカレントのわかりやすい例ではないかと思いますが、ロボット研究のような部分はリスクリングにも直接つながるかなと思います。しかしながら、どの大学も言い始めたリスクリングですが、リカレント以上に実をあげるのは難しい、形にしてみせるのがなかなか難しい分野です。そこでリスクリングについてはどのようにお考えでしょうか。

○ 大学法人

ありがとうございます。今私たち3、4年くらいの実績があるのですが、一旦は事業として採択になってるんですが、看護と教育、福祉をコンビネーションした形のリスキリングのプログラムを実施しています。それは受講料を頂いてやっているのですが、かなり早いうちから定員を満たすことができます。ただ情報学部になりますと、相談を受けるというのは行われているのですが、ここできちっとお伝えできるような実績まで上がっていないので、今後考えていかないといけないなと思います。

○ 委員

ありがとうございます。県立大学としての特性を考えますと、リスキリングについては期待が高まることはあっても、減ずることはないと思います。取組は大変難しいと思うのですけれども、ご検討をぜひよろしくお願いいたします。

続いて、芸術大学なのですが、キャリア教育に着手されたと、これに関しては以前からお願いをしていたものですから、ありがたく存じます。ただ、例えば東京藝大がアートマネジメントについて学部を作ってから四半世紀経とうかと思います。もちろんあちらはキャリアデザインのようなことだけではないのですが、それと比べるとようやくかなという感じもしております。同時になのですが、例えば今神戸のオーケストラが潰れるかという話が出ております。また大阪はこの20年くらいの間、オーケストラがつぶれる、文楽協会の補助金がなくなって大騒ぎになる、その一方で兵庫の文化センターは絶好調で注目を集めるとか、非常に激しい状態になっております。そのような中で、芸術団体がどうやって上手く活動の幅を広げていき、経営を安定させてゆけるのか、大きな問題となっています。愛知県ではそこまで深刻な状態はないように承知しているのですけれども、今後どういう事態が生まれてくるのか分からない。ぜひ、個々人のキャリアだけではなくて団体としての地域に根差した存続の在り方、こういったこともご検討いただきたいと思うのですがいかがでしょうか。

○ 大学法人

ありがとうございます。今色々なお話を仰ってくださったのですが、ここで上げているキャリア教育の目玉というのは、当然、普通の大学だったら企業就職のキャリアセンターみたいなのがあったりします。うちの大学でここで切り出してわざわざ書いたのは、アーティストや音楽家になるためにはどうしたらいいんだろうっていうキャリア教育です。ただ何を教えたらいいいのか、分

かりやすく言うと美術の方だったら、30歳くらいまで定職に付かないわけですね。アーティストになるわけですから。その場合のマネタイズの仕方、自己アピールの仕方、発表の仕方、そういったことを芸学的な観点から教えたり、現役アーティストがどうやってきたかっていうのを実際にやったりワークショップをやってみようということです。後半、仰っていた名古屋地域が恵まれているとは言いましても、例えばしらかわホールは一回閉めるという話になって、いわゆる民間の会社がそのあとやってくれるということで、そこに芸大が出資できるわけじゃないので、協力関係でやっていくことが大事だと思います。例えば今後進めようと思っているのは、一緒に演奏できるいわゆるオーケストラ楽団みたいな動きを作ったり、うちにこもって実技を教えてだけじゃなくて、外と繋がるということを念頭に少しずつそういった活動を増やしていこうと思っています。

○ 委員

ありがとうございます。

昨年度の学生が受賞した学外のコンクールと学生が受賞した件数が目標の2倍を超えたと、大変素晴らしいこととお慶び申し上げます。その一方で、先ほど県立大学に関して問題になっておりました科研費ですが、芸大だとこれがどうしても文化財修復のようなところに集中しがちになってしまいます。前から申しているのですが、芸大ではどうしても科研費にはそぐわない部分もあると、だからこそ、逆に芸術大学の側からこういうアピールができる、科研とは違いますけれども、例えば学生がこれだけ受賞している、こういったものは教育力の高さを示す素晴らしい数字だと思います。他大学と比べてどうか、なども含めて、ぜひ積極的にこのような成果をアピールしていただければと思うんですけれども、いかがでしょうか。

○ 大学法人

実技の、いわゆるアーティストとか音楽家の演奏家の先生っていうのは科研費にそぐわない部分もあるんですけれども、色々工夫してやってくれている先生もいらっしゃいます。文化財修復がとりやすいって仰ってくださいましたけれども、例えば芸術学の先生だとか音楽学だと作曲の先生だとかは理論系で、とりやすいというのもありますし、音楽美術の実技の先生が共同で授業をやっているんですね。もしかしたらそういった研究の芽が科研費を出そうというところまでいくかもしれないので、先方のたこつぽに入るのではなくて、一緒にできるアイデアで色々やっていこうとを進めております。大学同士でも2大学連携を進めている部分もあるので、インキュベーション施設も

作っていただけることになりましたし、今までにない研究の幅ができて、最終的には公的な研究がとれるようなところまで花開けば良いと思っております。

○ 委員

ありがとうございました。

○ 委員

ありがとうございます。先ほどリカレントの話がありましたけれども、最近だと、マイクロオペレーションというんですが、全部の授業をとらなくてもちよっとずつカリキュラムをとって認定書を出し、それが県大の認定書です、芸大の認定書ですというようにすると、勤め先でも給料が上がり、ポジションが上がる、そういうことをそこそこのお金をとってやるっていうのも出てきています。2つの大学のブランドがあると思いますので、そういうところも思い切ってやってもいいんじゃないかなと思います。

キャリア教育はたぶんどの大学もやっています。企業紹介でやっているところもありますよね。そもそも働くことって何っていうのをやらなきゃいけないくて、芸大なんかはまさしく芸術家になるんだっていうキャリア教育の事例として、見本になるのかなと思います。

○ 大学法人

先ほど音楽学部と美術学部で連携しているという話をしたんですけれども、5年くらいやっているんですね。今朝、その授業を終えて、ここに足を運んだんですけれども、今年度は名工大の学生が4名参加されています。建築系の学生が美術学部として参加されていることもトピックスとしてお伝えしておこうかなと思います。

○ 委員

県立大学の項番20と芸術大学の項番31にインキュベーション施設について書かれていると思いますが、県立大学だと地域連携として挙げられていて、芸術大学の方では研究の方で触れられているので、この辺はどういう風に考えればよいのでしょうか。名古屋大学のインキュベーション施設のイメージですと、いわゆるスタートアップ企業が入居して、コンサルティングも含めて色々な支援をして、交流の場所を提供して、学生のスタートアップも含めてスタートアップ企業に支援を行うというイメージでいたんですけれども、それが芸大の研究とどういう風につながっていくのかなという具体的な例、構想を教えてくださいなと思います。

○ 大学法人

ありがとうございます。インキュベーション施設が、地域連携貢献というところに入っているけれども芸大は研究に入っているということで、一見ミスマッチに見えるということだと思います。インキュベーションを本学で担当している学術研究情報センターのセンター長が一旦はこういう構想を抱いています。チームの中には芸大のデザインの先生も入っていて、構想段階から一緒に進めているので、研究支援、もっと言うと教育の分野に展開するということについては、ご指摘の通りです。私たちの大学では例えば名古屋大学とは違って、医療とか工学とかそういうところでのスタートアップというよりは、地域に根ざした多文化共生的なものに貢献していくような、文句としては、Connect for Social Impact というスローガンを掲げていて、自分たちが持っている教育資源の中で、どういうスタートアップ的な、あるいはアントレプレナーシップ教育を踏まえてやっていくかを構想しているものになります。例えば文学部を出て訪問看護を起業したり、教育活動で起業している卒業生たちに戻ってきてもらって、例えば教育とか研究とかに入ってもらって、最初から企業がいっぱい入ってくる想定ではなくて、もうちょっと着実に教育とか、研究のところで、自分たちで頑張って教育資源を使ってやっていくイメージで現段階は考えています。そこに芸大との連携をかませっていくので、スタッフが研究のところで繋いでいくということを期待しています。ちょっとわかりにくいですが、今申し上げられるのは以上になります。

○ 委員

ありがとうございます。

○ 委員

法人のところで、推進ということは、現状を変えていこうということだと思いますので、実際にどのように評価をされていくかと、すごく入れ替わりの激しいDXの業界の中で、今立てた方針がどこまで有効であるのかっていうのも、見立てによっては変わってくるのかなと思ひまして、そのあたりを教えてくださいませんか。

○ 大学法人

ありがとうございます。DXにつきましては、正直な話、法人は周回遅れだと思います。そういう状況ですので、これで指針方針を立てて、しっかり取り組んでいこうということでございます。昨日も東京へDXの関係で会議に出

席をしたのですけれども、他の大学も生成A Iの活用をやっぱり考え始めて、全学的に導入を図っているところもあります。それを他の大学も参考にし始めている現状だなということは感じております。こういうを進めるときに、なかなかトップダウンでいけないと仰っている大学もありました。私立ですとトップダウンでいけるところもあるんですけれども、公立大学だとボトムアップ的に取り組みをしながらやっていくということを仰っていたので、評価をどうしていくかって先ほど仰っていただいたのですけれども、それは取組をやってみて進めていくのかなと。ですので今回、このDX方針について、生成A Iとかそういう取組をまずはトライアル的に限られた職員にやってみて、来年度本格的に、少しずつやっていくしかないかなと考えています。

○ 委員

ありがとうございます。わかりました。

○ 委員

DXを掲げてクリックする回数が増えたというのも結構ある話ですね。でもやっぱりトップダウンでやらないと上手くいかないというのも、上手くいっている大学さんでも仰っていますし、学生から見ると教職員の方々が辛そうに働いているので大学の教職員になりたいと言う人が少ないんじゃないかっていう話もあるので、ぜひDXを進めていただいて働きやすい職場をよろしく願いいたします。

○ 委員

愛県大魅力化宣言、ネットで調べても出てきませんが、どこを見たら見られるのでしょうか。愛知県のサイトですか。

○ 大学法人

魅力化宣言は、法人のこの中期計画の目標を受けまして、県立大学の方で広報において魅力化宣言というのを打ち出したということになります。ホームページには上がってなかったかもしれません。学内での広報に際する目標になります。

○ 大学法人

あまり外の方には確かに載ってはいないですけど、学内で実は今年80周年でそういったポスターではやっているのですが、ホームページには確かに載っていない。

○ 大学法人

ももとは、自分たちの大学の魅力は何なのかを本当に構成員は認識しているのかという我々の問題意識から出発していて、結構個人的には良いものができたと思うんですけど、まずは学内で自分たちが働いている大学はこんな魅力があるんだということを共有しようよという趣旨で出しているものなので、まだ外に出すに至っていないという、そんな段階です。

○ 委員

わかりました。その上の広報グランドデザインは2026年度中に完成させるということですか。これらは外に公開するということですね。

○ 大学法人

そうです。こちらはまた発表していこうと思っています。これからです。

○ 委員

ぜひなるべく早い時間をお願いします。

(2) 役員報酬規程の改正について

○ 委員

なぜ減額するのか理由が今一つわかりませんが決まったことであれば仕方がないです。

○ 大学法人

はい、知事も副知事も減額しておりますので、それに倣ってというところがございます。

○ 委員

この件に関しては特にご意見なしということでよろしかったでしょうか。
(意見なし)

(3) 愛知県立高等専門学校の設置について

- 委員
こちらの高専はそのあと2年間の専攻科の設置をされる予定はありますか。
- 大学法人
現在のところ専攻科の予定はありません。5年の学びをして、それから就職する、あるいは大学に行く予定にしております。
- 委員
国立の高専だと全て専攻科がついている理解なんですけど、公立の高等専門学校で専攻科を置いていないところは多いんですか。
- 大学法人
大阪に高専がありまして、前は専攻科があったんですが、大阪公立大学と連携を強めるということで、大阪公立大学に3年次編入させるという連携を深めて専攻科を廃止すると聞いています。
- 委員
DX人材とかAI人材は本当に大事で、おそらく大学院に進みたいという人材はこれからとても多く入学されるのではないかと思いますけれども、学士取得へのルートがスムーズになるように、例えば名古屋にある工学系への大学との連携ですとか、そういう施策というか構想は今の段階で理念されておられますか。
- 大学法人
今のところ、まず一番には愛知県立大学には情報科学部がありまして、高専を5年で卒業して、情報学部の3年生に編入して、さらにそこから大学院に行くコースができないかということで情報科学部と議論し始めておりまして、名古屋大学、名古屋工業大学そういったところとも連携しながら将来的には進めていきたいなと思っております。
- 委員
ぜひ大学院への進学がスムーズにいけるように色々と構想を練っていただきたいと希望します。
- 委員
コースなんですけど、委員からもあったように情報系に特化しているんで

すが、他の学科やコースっていうのは、将来的には難しいんですか。情報が発達したことで、情報以外の技術とかを担う人がいなくなって、高専なんかは非常にそういうところに人材を送り込むには大事な役割になるんじゃないかって言われています。そこで情報に特化しているっていうのは、将来のビジョンとして考えていくのかなって思います。

○ 大学法人

学科、コースを新たに作るってなると、また文科省に設置申請や認可申請をするのかなと思います。

○ 委員

これからの社会構造を考えて上手く作っていただければと思います。

○ 大学法人

ロボティクスコースが、ものづくりに近いイメージと思ってもらって大丈夫です。機械とか電気を扱います。

○ 委員

ありがとうございます。

【その他】

○ 委員

最後に余計なことかもしれないんですけど、県立大学にお願いをしたいことがあります。芸大では、キャリアデザインに関して取り組んでおいでなのですが、県立大学の方では言及がございませんでした。今は人手不足なものですから、就職は大変に好調です。しかしその一方で、新卒一括採用をやめるなどの動きも、AI化が進む中で急激に表面化をしております。私は学生によく言うんですけども、今の4年生が楽しんでいるから2年生が楽しめると思うな、あと2年間の間に何が起きるかわからない、あるいは、楽しく就職した4年生が、5年後にどうなっているか知れたもんじゃない、と。ご案内の通り公認会計士などですら、不要になるのではないかとと言われております。これまであまり心配がなかったからこそ、今社会がどういう風に動いていて、学生が何を考えなきゃいけないのか、そういうキャリア教育をぜひ進めたいと思います。これは意見ではなく要望ですので、よろしくお願いいたします。

○ 大学法人

ありがとうございます。キャリア教育、キャリア支援というのは、どの大学もやっているのですが、一年に一回、この間7月にも行われたのですけれども、2年生の学生、それから親御さん、保護者を講堂に呼んで、卒業生とか外部の企業と我々も出て行って、理事長が民間出身だということもあり、キャリアということを考えてもらうことを早いうちから設けています。今年度は2、3週前に行ったんですけれども、やっぱり今委員が仰ったように、今まで余裕を持っていたところが、学生がどこまで危機感があるかわからないですけど、親御さんはすごく反応が変わりつつあるようで、今までのように、順調に就職ができるのか、大丈夫なのかという変化は出てきているようです。そういうのを対応しながら何ができるかっていうのを、手探りですけども、いただいた意見を大事にしながら学内でもしかるべき部署で展開できるようにしますので、よろしくお願いします。

○ 委員

ありがとうございます。よろしくお願いします。

○ 委員

ありがとうございました。これを持ちまして、第73回愛知県公立大学法人評価委員会を終了させていただきます。

以上

会議録署名人

会議録署名人